



# 南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成29年11月30日

校長 福田 俊彦

## 師走に思う

校長 福田 俊彦

過日、実施しました学芸会には、多くの方々にご来校をいただきありがとうございました。子供たちの姿、言葉から、自分たちの力を積み重ね、学芸会を創っていくという意気込みを強く感じていました。役になりきり、一人一人が輝く学芸会をお届けすることができたのではないかと考えております。子供たちが学芸会の取り組みを通して身に付けた人との関わりのお大切さ、その関わりから生まれる力の大きさは、これからの学校生活をよりよくする原動力となることと期待しています。

いよいよ師走を迎えます。世間の様子がいつもとは違い、心を動かされることとの出会いも多様にあります。1年を締めくくる月として、この1年を振り返ることもあります。そのような師走に思うことがあります。私にとっての師走は、やはり特別のもののように思っています。新年を迎えるにあたり、いろいろな家庭での地域での行事に取り組んでいた自分がいました。年末での一連の行事です。

大掃除です。畳をひっくり返して中に敷いてある新聞を取り替えます。そこには古い新聞に見入っている大人の姿が。障子戸を外し、障子紙を剥がしては枠を水で洗う。天日干しをした障子戸に上から障子紙を貼っていく。刷毛で糊を付けながら。はたき掛け、拭き掃除、掃き掃除。そして、薪で沸かす風呂の掃除。

買い物です。新年早々、どこのお店もお休みです。年越しそばや雑煮等、年末年始の料理を作るための買い物です。何をどれだけ買ってくるか、メモ紙をもとに、八百屋、肉屋、乾物屋、卵屋等を巡ります。いつのまにか買い物かごは一杯に。買い物が一度で済んだような記憶はありません。

餅つきです。寒風の晴天の日。大人も子供も集まり、餅つきの始まりです。餅米を蒸かしつきあげていく姿には力強さを感じました。手際よく伸し餅や丸餅、鏡餅を作っている姿にはその技術のすごさを感じました。少しのお餅をもらい頬張りながらその姿を見るのは、楽しい一時でした。

どの場面でも、多くの人との関わりがありました。そこに、地域の人達との繋がりを感じていたようにも思います。その繋がりが日常の生活に繋がっていったようにも思います。そして、子供たちは守られていたとも感じます。

この師走、子供にとってプラスの関わりだけならよいのですが、そればかりでないことは誰もが気付いていることです。子供たちが健全な歩みを積み重ねることができるよう、みんなの子供をみんなではぐくむことへのご理解とご協力を重ねてお願いいたします。この1年間も大変お世話になりました。ありがとうございました。

新年が、皆様にとって多幸な年となりますよう祈念いたします。